

学校だより 雄飛

佐倉市立西志津中学校 第8号 令和6年11月1日(金)

『未来を拓く 自己肯定感をもった生徒の育成』

～自立と共生を目指せる 西志津の生徒～

発行責任者 岩崎 徹(文責 野田 創)

生徒数 1年131名 2年152名 3年161名 計444名

『山溜穿石』

校長 岩崎 徹

私たちが生活をする佐倉市は、昭和29年(1954年)3月31日に市制を施行し、今年、市制施行70周年を迎えています。去る10月19日(土)には、佐倉ハーモニーホールを舞台に、佐倉市施行70周年を記念した「佐倉青春文化祭」が催されました。そしてその舞台上、市内中学校唯一である西中吹奏楽部が、素晴らしい演奏で花を添えました。選ばれし吹奏楽部員と保護者様、K先生・K先生、ご苦労も多かったと思いますが素敵なハーモニーをありがとうございました。

さて、「青春」という言葉を多く見聞きしますが、青春とは何でしょうか。辞書を紐解くと、「春また、青年の時・夢や希望に満ち活力のみなぎる若い時代・年を重ねること」などと載っています。そして、日清カップヌードルのCM『HUNGRY DAYS』(2017年～放映)の中では「アオハルかよ」と読み方を変えて使われたこともありました。ところで、青春にはその続きのことばがあることをご存じですか？中国の戦国時代(紀元前403年～221年)に生まれた自然哲学である、陰陽五行説(五行思想)における季節と色合いの組合せにより、「青春」・「朱夏」・「白秋」・「玄冬」と季節を表す4つの言葉が生まれました。それが現代では、人生を表す言葉として用いられています。

- 青春:若々しい新緑が生い茂るイメージから、活力に満ち夢と希望溢れる青年時代
- 朱夏:太陽の燃えるような暑さのイメージから、人生真っ盛りの壮年時代
- 白秋:枯葉の舞い落ちる物哀しげなイメージから、落ち着いて深みを感じさせる中年時代
- 玄冬:冬の日が暮れるのが早くなるイメージから、物事を完成させる60歳以降(生まれたばかりの頃は、未来の見えない混とんとした時期であることから玄冬とすることもあるそうです)

これに準えるならば、西中生は今が青春、あるいは間近に訪れる青春への準備段階。保護者の皆様は朱夏真っ盛りといったところでしょうか。ところがアメリカの詩人サムエル・ウルマンは「青春の詩(Youth)」の中でこのように記しています。

青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。
優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心
こう言う様相を青春と言うのだ。
年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。
歳月は皮膚のしわを増すが情熱を失う時に精神はしぼむ。(後略)
つまり青春はいくつになっても謳歌できるのだ。たくましさ、情熱、好奇心、冒険心に富み、理想を追い続けるバカの姿は、まさしく「青春 真ただ中」といえる。
バカになって、未熟で粗削りである自らを認めることで恐れることなく物事に挑戦していこう。

アメリカの軍人であったダグラス・マッカーサー氏が、昭和天皇と会見した東京でも、この詩を自分の執務室にかけ、時に演説の中で引用したそうです。また、日本でも「電力王」といわれた松永安左衛門氏や「経営の神様」といわれた松下幸之助氏と、内外の政治家や経済人たちに愛誦されてきたそうです。

青春とは人生の一時期をいうのではなく それは心の在り様。西中生も、保護者の皆様も、そして私たち西中職員もみんな、「強い意志」、「創造の気性」、「生氣ある感性」、「臆病を凌駕する勇氣」、「妥協を退ける冒険心」を忘れず、それぞれの青春を謳歌することを望みます。「人はただ年を重ねることで老いるのではない。自分の理想を棄て去ることによってのみ老いる」の言葉の通り、理想と目的を見失うことなく。

敬老ふれあいフェスタ

コロナ禍が明け、復活した敬老ふれあいフェスタも今年で3年目を迎えました。西志津地区社会福祉協議会の皆様の運営のもと、今年もふれあいセンター前の萌の広場で開催されました。本校からは、吹奏楽部、やまぶき学級が参加し、3年生がボランティアとして運営を支えてくれました。

やまぶき学級は、日頃の作業学習で制作したプラスチックキャンバスやブックカバーの他、今年度新たに取組み始めた焼き物の販売も行いました。吹奏楽部は1・2年生のメンバーで初めて臨む発表の場でしたが、進行も曲紹介も生徒自身が行い、大勢の人たちの前で堂々と演奏する姿を見せてくれました。

ボランティアで参加してくれた3年生も、販売や会場の案内、物品運搬の他、準備や後片付けまで一生懸命に取り組んでくれた、と社会福祉協議会の会長さんからもお褒めの言葉をいただきました。

普段の学校生活では味わうことのできない貴重な体験の機会をいただき、参加した生徒も大きな充実感達成感を得ることができたと思います。



十一月の予定	1日	金	三者面談・保護者面談(~8日)	14日	木	セクハラ体罰アンケート
	3日	日	文化の日 西志津町内会音楽祭	17日	日	諸活動停止期間(~22日)
	4日	月	振替休日	21日	木	第3回定期テスト(1・2年)
	5日	火	ワンポイント避難訓練	22日	金	第3回定期テスト(1・2年)
	11日	月	職員会議	25日	月	北総教育事務所指導室訪問
	12日	火	第3回定期テスト(3年)	28日	木	救急法授業(3年)
	13日	水	第3回定期テスト(3年) 印旛地区音楽発表会 ICT支援員来校	29日	金	救急法授業(1年)

11月のスクールカウンセラーの出勤日は11日(月)、18日(月)、25日(月)です。

11月の学校徴収金の振替日は6日(水)、再振替は20日(水)です。口座残高の確認をお願いします。

授業参観・地域ミニ集会 令和6年10月17日(木)

10月17日に、本年度2回目の授業参観を実施しました。総勢200名を超える保護者の方の参観をいただきました。中には「せっかく参観に来たのに、教室に入れなかった」という方もいらっしゃったかもしれません。大変申し訳ありませんでした。そんな中、授業参観後のアンケートからは、今後の授業づくりの参考にさせていただきご意見を数多くいただきました。

授業参観後には、体育館で地域ミニ集会を開催しました。登下校の通学路の交通安全について、事前に寄せられたアンケートや、当日参加された保護者の方からの意見を聞くことができました。学校評議員の方もグループ協議に加わり、地域・家庭・学校という、さまざまな立場から、子どもたちの安全を守るためにできることを一緒に考える貴重な時間となりました。ご意見を寄せていただいた保護者の皆様、そして当日お越しくださった保護者の皆様に、ありがとうございました。



【授業参観アンケートから】

1	授業の狙いはわかりやすく示されていたか	そう思う	66%	だいたいそう思う	29%
		あまり思わない	4%	思わない	1%
2	授業の説明は生徒にとってわかりやすかったか	そう思う	56%	だいたいそう思う	38%
		あまり思わない	5%	思わない	1%
3	生徒の様子はいかがでしたか	良い	60%	概ね良い	36%
		少し気になる	4%	気になる	0%

【寄せられたご意見 一部抜粋】

- 具体的事例から一般化への流れが素晴らしかった。演習問題がもう少しあれば最高だと思う。
- 子供たちの発表がわかりやすくとても良かったと思います。
- 座学の授業ではなく、実験の授業なので、今後、もう少し楽しみながらいろいろなことを体験し、理解し、知識として習得できるような授業になるよう、願っております。
- とてもいい授業だったと思います。保護者も顕微鏡を見る事が出来て、昔を思い出しました。子供たちもしっかりと先生の話も聞いていたし、積極的に受けている様子がとても良かったと思います。参加出来て良かったです。
- 自分で考える力がついてきたと、実感しました。貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

ジャージ・体操服・ブラウスの価格変更スケジュールについて

令和6年11月1日～	ハーフパンツ価格変更	(ご案内)	
令和6年12月1日～	旧ブラウス価格変更		<ul style="list-style-type: none"> ・ 体操服は今後2色から選択することができます。両方の色を選ぶこともできます。 ・ ブラウスは丸襟、角襟、どちらを着用しても問題ありません。
	新ブラウス販売開始		
令和7年 1月1日～	新体操服・氏名票販売開始		
令和7年 5月1日～	ジャージ新価格で販売開始		
令和9年 3月31日まで	現在の体操服販売終了		

- ・ ワイシャツ、ブラウスは、制服販売店以外で購入したもので構いません。
- ・ ジャージ・体操服・ブラウスに関わるご質問等ございましたら、本校教頭までお問い合わせください。(462-1161)

全国学力・学習状況調査の結果について

4月に3年生が実施した全国学力・学習状況調査について、本校の様子についてお伝えいたします。国語、数学の調査結果から、生徒の傾向と今後の取り組みについてまとめています。

また、質問紙の回答からわかる様子についてもまとめています。

【国語の調査結果から】

言語の使い方や情報の扱い方に比べると、言語文化に関する事項についてよく理解しています。これは、言語文化事項の出題内容が行書に関するもので、書写の授業の実施時期が近かったことも原因と考えられます。

思考・判断・表現力の面では「書く」「読む」に比べ、「話す・聞く」ことを得意とする生徒が多いようです。しかし、アンケート調査によると、「話す」ことへの苦手意識は強いことが読み取れるため、授業の活動に対話の機会を多く設定するなどの工夫をしていきたいと思えます。

また、選択式や短答式の解答だけでなく、記述式の問題に粘り強く取り組んでいたことがうかがえます。日頃から、思いや考えを文章にまとめ、表現する活動を継続していきたいと思えます。

【数学の調査結果から】

数学の勉強が大切で、問題が解けても、別の解き方を考えようとしたり、問題が解けなければわかるまで考えようとしたりする生徒が多いようです。

また、与えられたデータから最頻値を求めたり、グラフの意味を事象に即して解釈したりできる生徒が多いです。このような様子から、習得した知識・技能を利用して数学的に表現したり、結果を振り返り新たな性質を見い出したりすることができるような授業を工夫していきたいと思えます。

【生徒質問紙から】

★質問紙からわかる生徒の実態として、話し合いを通して課題の解決を図ろうとしている生徒の割合が高く、自分とは異なる意見に対しても寛容であり、新たな考えを見つけるために、肯定的に考えていることがわかります。また、学んだこと、身につけたことを、実際の生活に役立てようとしています。これまで取り組んできた、対話的な学習活動の効果が現れていると考えられます。

★一方で、自分がこれまでに身につけてきた知識や技能を、地域や社会をよくするために何かしたいと思う気持ちがあまり強くないこともわかりました。体験的な学習活動や、地域の人との関わりを持つこと、ボランティア活動を通して、社会貢献の意欲を高めていくことをができると考えます。

★学校生活への満足度が高く、友人関係も良好である生徒の割合が高いです。